

2017年度

海外研修・研究等 助成事業 研修報告

## グローバル化する 社会に向けた 資質・能力の育成

～子供の関心・知的好奇心と

「人・もの・こと」をつなぐ工夫を通して～

浜松市立城北小学校 教諭 藤岡 政哉



1223番校付属幼稚園にて



1223番校の集会所にて

はじめに

21世紀を生きる子供たちに求められる資質・能力として「グローバルな視野をもつこと」があげられる。子供たちが未来形成を有意義なものとして実現できるように自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ることが大切となる。社会の急速な変化の中で、これからの学校教育においてどのような資質や能力を育成すべきか研究していきたいと考えた。学校教育において、グローバル化する社会において世界の中でも取り組みの早かったロシアの教育を吸収し、よりよきものを日本の子供たちに還元したいと考え研修に応募した。

モスクワ市内の1223番校、付属幼稚園に訪問

まず最初に幼稚園の園長から聞いたことはソ連時代からの「氷の壁」を取り除きたいという思いで、ロシア全体がグローバル化に向けて取り組んでいるということだった。英語教育だけでなく日本語教育にも力を入れていて、グローバル化に向けた資質・能力の向上に向けた教育を展開している。

1223番校は70年間、英語学校と呼ばれていた。学校はオリジナルのカリキュラムに基づき授業を行っている。幼稚園児から英語教育を行い、英語は6歳から、日本語は自由科目で9歳から始まる。ロシア語はもちろんのこと、英語は必修であり、フランス語とドイツ語が選択必修、更に中国語、韓国語、日本語等から選択する。つまり、少なくとも母国語を含め4ヵ国語を習得するということだ。

モスクワ市内で出会った中学生くらいの学生に話かけると、ほとんどの子供が英語を話すことができた。モスクワ全体で英語の教育のレベルの高さを感じた。1223番校は幼稚園から12年生までが学ぶ国立大学附属である。生徒たちは高い英語力を持ち、何より自分の意見を英語で話そう、話したいという積極的な姿勢があった。

社会教育施設を実地調査して

「赤の広場」や「クレムリン」、「エルミタージュ美術館」において実地調査を行った。そこには、ロシアの子供たちも学習するために来ていた。グローバル教育を推進していくうえで、自国の文化を理解し、大切にすることを意識していた。日本と同様に、幼稚園から大学生まで幅広く見学に来ていることを学芸員に教えていただいた。見学する学校の生徒は、グローバルな視点・思考を身につけることを目的としている。1223番校でも、1ヵ月に1回は世界遺産である「ノボデビッチ修道院」や「クレムリン」、「トレチャコフ美術館」などに見学に行き、教養を高める教育を実施している。

おわりに

ロシアのグローバル化する社会に向けた取り組みを調査して感じたことは、英語教育だけでなく他の言語にも力を入れていたり、学校や地域が協力して子供たちを教育していこうとする強い姿勢を感じることができた。国をあげてグローバル社会に通じる人間を育てようとする体制が整っていると思った。

貿易大国であるロシアにとって国際化は重要なことであり、国をあげて語学力にも力を入れていることを切実に感じた。ソビエト連邦崩壊後、ロシアとなり日々進歩を積み重ねている。今後、英語というものは国際社会に生きる子供たちにとって、より一層世界共通語となると感じた。